

別格本山 東長寺 五重塔展

TOCHO-JI &
NEW STUPA
EXHIBITION

平成23年春、博多に新たな宝がうまれる

弘法大師によって建立され、黒田藩の菩提寺として名高い東長寺。平成23年春、六角堂、福岡大仏に続く新たなシンボルとして、純木造建築による五重塔が完成します。落慶法要に先駆けて、東長寺に納められる秘宝（一部）と、五重塔建立の軌跡を一挙公開いたします。

平成23年 1月28日(金) - 2月6日(日) 入場無料

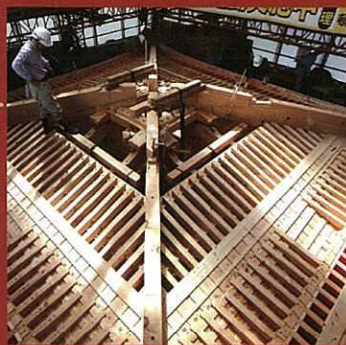
■九州国立博物館 ミュージアムホール ■開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
■休館日：1月31日（月） ■主催：別格本山 東長寺 ■共催：九州国立博物館



別格本山 東長寺
福岡市博多区御供所町 2-4
電話 092-291-4459

5th ANNIVERSARY
NATIONAL MUSEUM
九州国立博物館
<http://www.kyuhaku.jp>

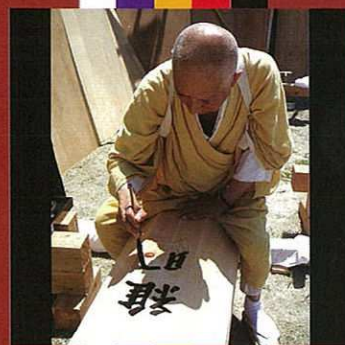
五重塔とは、いかにして造られるのか



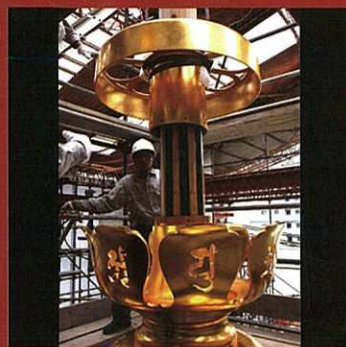
木組

構想から37年、材料の厳選、伝統的な様式の研鑽から熟練した大工の技まで系統だった総合技術が必要とされる木造社寺建築の粋を集めた美しい外観。数々の研究により、現代のテクノロジーを屈指した耐震構造。

そしてもっとも重要な初層部分には、新進気鋭の女流日本画家鳥山玲画伯による大日如来と内部荘厳。東長寺第51代目住職の藤田紫雲氏の総指揮のもと、悠久の歴史と壮大なる宗教観を重んじながらも、現代のエッセンスを随所に盛り込んだ、平成に伝えられる密厳浄土として、この五重塔は誕生いたします。



心柱



相輪



鬼瓦

五重塔には、何が納められているのか



御本尊制作風景

五重塔初層部分は、鳥山玲画伯によって描かれた御本尊である大日如来そして内部荘厳があらわされています。

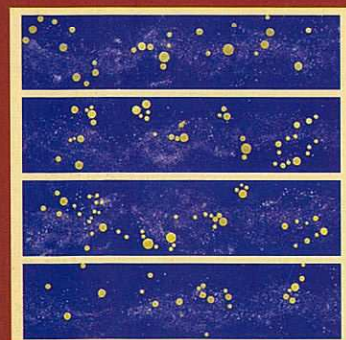
この度の大日如来は、金剛界・胎藏界二尊を二面一体の仏画として描かれており、また大日如来を取り巻く天空天井、四天柱、壁画、扉絵は四季の花鳥画で表現され、蓮座須彌壇から細部に亘る意匠デザインほとんどにおいて、絵画表現から生まれた必然に従い具現化されています。

このような内部荘厳は歴史的にみても大変異例のことであり、後世にまで語り継がれることでしょう。そこには東長寺住職の今の時代と未来という時空を往還する眼差し、強い志が込められています。

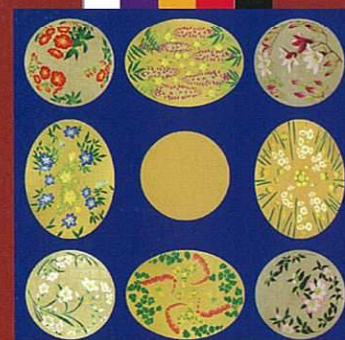
独自性あふれる表現の数々は、塔の構造の一部として組み込まれてしまうため、作品として細部まで間近でご覧いただける機会はこの展覧会以外ありません。塔の完成を目前に控えた新春、まずは地元博多のみなさまの心に留めていただき、また未来永劫に愛される「宝」として存在することを願ってここに御披露目させていただきます。



壁画制作風景



天井 星宿二十八宿



天井円窓画

別格本山 東長寺



JR博多駅から徒歩10分
地下鉄祇園駅下車徒歩1分
西鉄バス祇園町下車徒歩1分

鳥山玲 (とりやま れい)

1956年東京生まれ
東京芸術大学大学院
博士課程日本画専攻修了
故 平山郁夫画伯に師事
幅広い制作領域を持つが
緻密かつ大胆な構図、
繊細な色使いによる
花鳥画は大変評価が高い
現在、無所属